

## 参加型みちづくりにおけるプロセスデザインに関する研究

日大生産工(院) ○門脇 暦  
日大生産工 永村 景子

### 1. 背景および目的

近年の公共空間整備では、市民の意欲関心や参加意識の高まりとともに市民に寄り添ったまちづくりが求められている。

本研究は、群馬県西毛広域幹線事業一部区間(以下、安中工区)で行われている「風景を魅せるインフラ整備事業」を対象とする。本事業は、道路の拡幅や電線共同溝の整備において市民参画を導入し、公共空間整備が行われている。本研究は、整備計画案の検討が始まった2018年度からの事業経過とともに、市民が整備事業に参加しやすいようなプロセスデザインを構成することを目的とする(表1)。

### 2. 研究対象地

#### (1) 対象地概要

本研究の対象地は、安中工区の一部である、安中市役所前(以下、市役所前)区間である(写真1)。本事業は、対象区間の歩道部となる「標準部」と、安中市役所庁舎東側スペースを利用したミニ広場となる「特殊部」の2種類の景観整備を行うものである。2018年度より市民の参画を得ながら進め、2019年度には整備計画案を策定した。整備計画案では、市民検討会や先行施工広場(後述)のアンケート調査において、とりわけ緑に対するニーズが高く、当初の計画では歩道幅員の確保や管理の都合上、植栽を行わない予定であった標準

部には、地被類による植栽帯を配置することとなった。また特殊部は、憩う場所・集まる場所として緑豊かな空間として整備することとなった。

#### (2) 「歩きたくなるみちづくりプロジェクト」

群馬県安中土木事務所(以下、安中土木)と群馬県安中総合学園高等学校(以下、安総高校)との間で締結された、安中工区に関する「人々が歩きたくなるみちづくりを目指す取り組み」である。2021年度からは安総高校、大学、デザイン事務所と安中土木が協定に基づき連携を始める。

2019年度に策定した整備計画案をふまえ、2021年度に植栽や広場構築を再現するため、経年変化の検証や管理活用体制の試行を目的とし、市役所前駐車場内に先行施工広場が設置された。そこでは、一部植栽の消失や利用者が少なく、活用されているとは言い難い状況が続いたことから安総高校の協力を得て、ANNAKA GARDENとしてリ・デザインし、市民のニーズとして緑をコミュニケーションツールとした市民参画の機会を設け、整備事業や空間に対する興味を喚起し、道路供用後の空間利活用につながるような参画意識醸成を図った(写真2)。

#### (3) 対象地の現状

2023年度は、安総高校、デザイン事務所、安中土木により「特殊部」の植栽・空間デザインを検討し、詳細設計が決定した(写真3、図2)。

2024年度は、9月26、27日に安中市役所来庁

2018	2019	2020	2021	2022	2023
整備計画案作成期		整備案検証期		整備工事移行期	
2018年度から市民のみならずと整備内容を検討しました。ヒアリング調査や検討会(市民ワークショップ)を経て整備計画案を作成しました。		2021年度には道路空間の利活用や維持管理に向け、安中市役所駐車場の一角を利用したミニ広場整備や、アンケート調査を実施し、整備計画案を更新しました。		安中土木事務所と安中総合学園高校との間で「人々が歩きたくなる道路」づくりを目指す協定を結び、「歩きたくなるみちづくり」プロジェクトをスタートしました。専門家や大学生と協力しながら花いっぱい歩行環境創出に取り組んでいます。	
ヒアリング調査	市民ワークショップ	ミニ広場整備	アンケート調査	ミニ広場リニューアル・ANNAKA GARDEN 誕生	市役所前のみちづくり
2019年2月～9月 参加者：約30名	第1回：2019年10月07日(44名参加) 第2回：2020年01月19日(25名参加)	2021年05月～06月	アンケート期間 2021年06月～09月 回答数：23件	リニューアル検討 2021年12月15日 安中総合学園高校 生徒8名参加	花壇整備案 2022年03月14日 安中総合学園高校 生徒2名参加

図1 事業経過プロセス



写真1 安中市役所前



写真2 ANNAKA GARDEN



写真3 デザイン検討



図2 詳細設計パース

Study on Community Design Process in Road Construction Project

Koyomi KADOWAKI and Keiko NAGAMURA



写真4 参加者向け事業PR

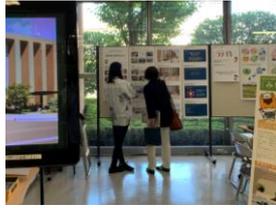


写真5 事前説明



写真6 意識調査①



写真7 コメントボード①

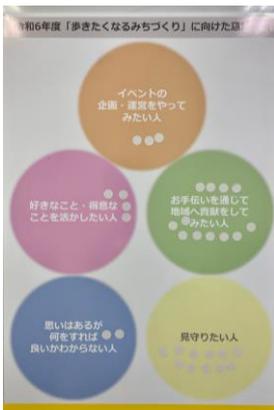


写真8 意識調査②



写真9 コメントボード②

者に向けた事業PR、10月13日にあんなか祭り来訪者に向けた事業PRと、11月開催予定の市民ワークショップを控えている。2025年度竣工前に、整備事業を知ってもらい、興味を持ってもらうためのきっかけづくりが必要である(写真4)。

### 3. 研究方法

本研究は、事業PRの際に作成した3Dモデルを用いた整備後の対象区間の様子と、事前説明としてスライド形式にしたものを用意した。事前説明の内容として、2023年度までの事業経過や、安総高校が考案した地域連携型制度(hanawa)について、長期的な管理活用における課題、市役所前整備後の利活用について説明した(写真5)。

また、事業PR参加者を対象に、アンケート調査、意識調査とコメントボードを行い、整備事業

に対する意欲関心や参加意識を調査する。

今回は紙面の都合上、意識調査の結果について記述する。

## 4. 地域住民に対する調査

### (1) 意識調査・コメントボードの概要

2023年度、2024年度の2年にわたり、整備事業に対する意欲関心や参加意識を図るため、意識調査とコメントボードを行った。

意識調査では、5つの項目で自身の気持ちに近いところにシールを貼ってもらい(写真6, 8)、コメントボードでは、道路の活用法について記述式で回答をいただいた(写真7, 9)。今回、意識調査①(2023年度実施)40名、意識調査②(2024年度実施)32名の回答を得た。

### (2) 意識調査の結果・考察

写真6の意識調査①と、写真8の意識調査②を比較すると、企画をやりたい人が①で9名、②で3名、得意なことを活かしたい人が①で4名、②で4名、地域へ貢献したい人が①で11名②で12名、(参画に対して)思いはあるがわからない人が①で4名、②で2名、見守りたい人が①で12名、②で11名となった。前年度に比べ企画をやりたい人は減ってしまったが、他の4項目においては大きな差が生まれなかったため、始めは見守りながら、今後のプロセスデザイン構成に向けた取り組みを検討していくことが必要である。

## 5. 研究成果および今後の課題

本研究では、参加型みちづくりにおけるプロセスデザインの過程として、事業PRからアンケート調査、意識調査を行うことができた。

今後、より事業PRにおける興味関心を得る方策の検討、参画意識を高めるためのプロセスを検討していくことが課題である。

謝辞：本研究を進めるにあたり、群馬県安中土木事務所の皆様、株式会社Tetorの皆様、群馬県立安中総合学園高等学校の皆様には多大なるご協力をいただきました。記して謝意を示します。

### 参考文献

- 1) 群馬県庁土木整備部都市計画課  
<https://www.pref.gunma.jp/page/11551.html>  
最終閲覧(2024.10.13)